



特集

手数料と使用料が変わります

ピックアップ

財政健全化への道 シリーズ

お知らせ

とまこまいスケートまつり開催(2月10日~12日)

市と教育委員会で嘱託職員を募集

# この街のかたち

No.2

## 鳥アリーナ

凍った土の上をカチカチになった馬糞(ふん)を子どもたちが棒切れで転がしながら遊んでいたのが、現在『スケート王国』と呼ばれる、苫小牧のアイスホッケーの起源であるらしい。

今の苫小牧の街には、このように子どもたちが自由に遊べる場所は限られているし、凍った馬糞もない。しかしながら市民が我が街こそスケート王国であるということを負す



るのであるならば、これくらいの起源は知っておく必要があると思う。今は昔ほど子どもたちが冬場に外で遊ばなくなってきた。少子化の時代でもあるし、ゲーム機が発達したり、パソコンが家庭に導入されたり、あるいは『お受験』のための塾通いなど、理由はさまざまだろうが、昔を知る人にはその光景は寂しく映ると思う。冬場で子どもたちの歓声があちらこちらで聞こえていた時代に生きた人は特にそうだろう。その代わりと言っては何だが、施設のほうは年々立派になった。近年では『白

鳥アリーナ』が完成し、多目的なスケート競技が、ほぼ年中通じて楽しめるようになったし、沼ノ端にもスケートセンターがある。特に前者は国際大会にも対応できる施設であり、市街地や苫小牧駅から近い。国内屈指のスケート施設をこの街は持っていると言えるのである。やはり、苫小牧はスケートの街だと世代の垣根を越えて感じる瞬間である。

今年は冬の国体のスケート競技が苫小牧で行われる。『スケートの街』としては、多に盛り上がり、活気づきたいところだ。これをきっかけに、苫小牧に来た人には、この街の魅力をつづりと味わってもらいたい。印象を持って帰ってもらいたいし、市民は、この街のスケートの歴史と街の発展を再考してみてもどうだろうか。苫小牧市博物館には大正時代からのスケートの歴史が展示され、当時の用具など実物を見ることができ。スノー観戦だけでなく、こういった文化施設に足を運ぶことは、市民にとって決して損になることではないだろう。



高山知哉さん(日吉町)の創作です